

おかえり。

丹野 奈緒 東京都町田市 四十八歳

何も音がしない。

いや、風の音がざわざわと、そして遠くで鳥の鳴く声が聞こえる。

日本で一番美しい村、そんな言葉を聞いたことがある。山に囲まれた小さな村。

穏やかにのびのびと生きている木々。いろいろな緑色が美しさを競うように燃えている。そして。

畑は、荒れ果てていた。

村の役場に近づくと、丸っこいお地蔵さんが笑っていた。そっと手を合わせると音楽が流れた。

音のない世界で突然流れる音楽にびっくりしながら、何か違和感を感じた。

役場は閉まっていた。誰もいない。そうだ、誰もいないんだ。この村には人がいない。

感じた違和感はそのにあった。

しかしそこに誰かいたかのように、花は綺麗に並んで咲いている。人の手が入っているのだ。

役場の入り口に植木鉢が見える。これも手が入っている。今さっきまで、大切に水をやっていたのだろう。

お地蔵さんが歌うのをやめた。また静寂がやってくる。

ざわざわと緑が話しかけてくる。

帰っておいで。

緑が静かに話しかけてくる。

誰もいないこの村に話しかけてくる。

愛されているのだ、この村の人たちは、山に、木々に、花に。

自然と一緒に生きてきたのだ。

日本で一番美しい村は、避難指示解除を受けて、人々が帰り始めている。

もちろん元の生活に戻るのには簡単なことではないだろう。

でも、人々には聞こえるはずだ、木々が、花が、山が、

「おかえり。」

と呼びかける声を。